

受験天才列伝

——日本の受験はどこから来てどこへ行くのか

じゅそうけん

受験エリート 強烈エピソード

法学博士
山口真由
さん
の推薦!!

何度読んでも面白い。

アイドルグループ「学歴の暴力」への直撃インタビュー&

宇佐美典也×西岡壱誠×じゅそうけんを

(制度アナリスト)

(東大生作家)

収録!!

受験のはじまりから最前線までを一冊で読み解く!!

受験天才列伝

— 日本の受験はどこから来てどこへ行くのか

じゅそうけん

星海社

322



SEIKAISHA
SHINSHO

はじめに

みなさんこんにちは、じゅそうけんです。

とは言ったものの、私の努力不足でまだまだ知名度が足らず、ご存じない方も多いと思いますので、まずはじめに簡単に自己紹介させていただきます。

私はXをはじめとするSNSで「じゅそうけん（受験総合研究所）」と名乗って活動している、伊藤^{いとう}滉^{こう}一郎^{いちろう}と申します。「受験・教育情報Xエンターテインメント」をモットーに活動しており、毎日欠かさず受験情報を発信しています。教育業界の正統派の方々とは少し毛色が違っており、**学歴系インフルエンサー**と呼ばれることも多いです。

扱う領域としては、小学校受験から大学受験まで、さらに最近は就職活動や海外大受験にまで触手を伸ばし始めています。**選抜制度**がとにかく好きなんです。



じゅそうけんのX (@jyusouken_jp) へのリンク

4年以上にわたり、毎日欠かさず受験の最新情報をポストし続けており、フォローは2024年10月時点で10万人に到達しています（受験系の発信メディアでは最大規模?）。

受験産業が生み出したモンスター、かつこよく言うと、「新進気鋭の受験評論家」といったところでしょうか。

じゅそうけん誕生の経緯ですが、話は学生時代まで遡ります。

浪人時代にハマってしまった受験研究（受験勉強そっちのけで、全国の進学校の実績や特色を「研究」しておりました）の成果を大学4年の内定期間中に発信してみたところ、多くの反響がありました。

可能性を感じた私は銀行就職後もコツコツ情報発信を続け、アカウントが数万人規模になった段階で仕事をやめ、とうとう「じゅそうけん」として独立してしまいました。

オンライン塾やSNS運用の事業を行いながら、生き甲斐である受験情報発信を現在でも懲りずに継続しています。

本書をお読みいただいたみなさんには是非、各種SNSをフォローしていただけると幸いです。

さて、本書はどういった本なのかと言いますと、これまで出してきた本や記事とは一味違った内容となっています。中学受験や高校受験などの受験情報に関するものではなく、受験の歴史を振り返り、さらには受験において圧倒的な成果を残した「**受験天才**」の生態に迫っていく本です。

勘違いされている方が多いのですが、いわゆる「**天才**」と、今から本書で追っていく「**受験天才**」は似て非なるものだと考えています。

いわゆる「**天才**」というのは、この世にないものを新たに生み出したり、前人未到の記録を打ち立てたりしたような人のことを指すのだと思います。

「**天才**」として有名なのは発明家のエジソンや物理学者のアインシュタイン、実業家のスティーブ・ジョブズやビル・ゲイツといったところでしょうか。彼らの生み出した発明やサービスは世の中に多大な影響を与え、私たちの生活をより豊かなものにしてしてくれます。

本書で取り上げている**受験天才**は、**中学受験・高校受験・大学受験**といった閉じられた

ゲームの中で突出した才能を示すプレイヤーのことを指しており、必ずしも世界的な功績をあげたとは限りません。

彼らの多くはノーベル賞級の発明をしたり、画期的なビジネスを生み出したりすることもなく、平凡な医師や研究者として生涯を終えることがほとんどです（反対に世界的な実業家や研究者が「受験」において圧倒的な結果を残していたかという点、そうでないことがほとんどです。これらは全く別の能力なのです）。

そもそも、私はペーパーテストなくしては「受験天才」の存在はないと考えています。彼らは**科挙的な「ペーパーテスト一発勝負」の世界の中で輝く**のであり、**総合型選抜（旧・AO入試）**のような試験の覇者を「受験天才」と呼ぶのは少し違う気がします。

昨今、日本でも一般受験を経験する人は年々減少しており、学校推薦型選抜や総合型選抜といった「年内入試」で受験を終える人が多数派となりました。このままではペーパーテスト一発型の試験は絶滅危惧種となってしまうのかもしれない。

そんな背景もあるので、ノスタルジ的な意味合いも含ませながら本書を執筆しました。本書では、そんな「**受験天才**」に**徹底的にフォーカス**し、**彼らがいかに偉大であるのか**を喧伝していきたいと思えます。

もしもこの本を手にとったあなたが受験勉強真っ只中の受験生だったら、彼らへの憧憬の念をモチベーションに変えるのも良いかもしれません。受験天才はペーパー試験に立ち向かう者に希望を与える存在となることでしょう。

もしもこの本を手にとったあなたが昔受験を乗り越えた経験のある社会人の方だったら、かつて経験した受験を振り返りノスタルジーに浸りながら、酒の肴にでもしていただけたら幸いです。

今回は対談企画も2つ収録しています。

東京 とうきょう 大学 だいがく を卒業し、霞が関で経済産業省の官僚として働かされていた宇佐美典也 うさみのりや さんと現役東大生で『ドラゴン桜』の監修も務める西岡壱誠 にしおかいつせい さん、メンバー全員を旧帝大出身で固めたアイドルグループ「学歴の暴力 がくれきのぼうりよく」さんとそれぞれ対談させていただきました。

普段関わることのない高学歴の方々との意見交換で、さまざまな角度から「学歴」をみることができ、大変有意義な時間でした。

本書に触れて、少しでも多くの方が受験・学歴の魅力に取り憑かれてくれたら、これに勝る喜びはありません。

それではやっつけていきましよう。

特別巻頭インタビュー「**学歴の暴力**」×じゅそうけん 11

学歴最強、だけど学歴に縛られない！

現在進行形の「受験天才」アイドルはいま何を考えているか!?

第一章 **日本初の受験天才は誰なのか**（戦前の受験天才） 53

第二章 **受験天才は日本の発展を支えたか**（戦後の受験天才） 89

第三章 変わる教育と変わらない受験天才たち

123

特別鼎談

宇佐美典也×西岡孝誠×じゅそうけん

『受験はワンダーランドなのか、デイストピアなのか』

161

おわりに
192

学歴最強、**だけど学歴に**
縛られない！現在進行形
の「**受験天才**」**アイドル**は
いま何を**考えて**いるか!?

特別巻頭インタビュー

「**学歴の暴力**」×じゅそうけん



学歴の暴力

旧帝大卒セルフプロデュースアイドルユニット。
平日は社会人、休日はアイドル。東京・名古屋を中心に活動中！



なつび なつ

東京大学工学部卒
サクラサクピンク担当



あろえ あろ

京都大学文学部卒
赤本レッド担当



あずき あず

名古屋大学情報文化学部卒
蛍光ペンイエロー担当



りりり かり

九州大学工学部卒
青チャートブルー担当

※ 2024年10月をもって、りりり かりは卒業しました。

じゅそうけん 本日はアイドルグループ「学歴の暴力」のみなさんにインタビューをさせていただきます。受験の「これから」を振り返り、「これまで」を考える本書ですが、誰も見たことのない「受験」のリアルの現在形を体現されておられる「学歴の暴力」さんは、一度ぜひお話を伺いたいと思っております。なんと今日はライブが終わった直後のタイムミングにお時間をいただきまして、本当にありがとうございます。先ほどまで、私もライブを拝見し、フロアで「高学歴ビーム」を浴びました。とても楽しかったです！

学歴の暴力の二同 ありがとうございます！

じゅそうけん 「高学歴ビーム」、本当に笑いました。みなさんがステージ上から放つビームなんです、旧帝大の「学位記」をもっているお客さんはビームを防げるんですよ。

なつびなつ(東大) そうなんです。いつのころからか「ビーム」を打つようになって、最初はみんな「あゝっ」って倒れてくれてたんですけど、高学歴のオタクが対抗してはね返すようになって(笑)。はじめは、そう、「卒業証書」だったんですよ。そこから、いま

の「学位記」の茶番が生まれた感じですね。あ、でもなんでも代わりにしてもらっていいんですよ。

りりりかり(九六)「なんでも」って言っちゃって、大丈夫かな……。

じゅそうけん 僕は早稲田わせだ大学卒なので、はね返せないですね！

旧帝大出身者で結成した最強の学歴アイドル「学歴の暴力」

じゅそうけん 学歴の暴力さんは、旧帝大出身の4名の方から成るグループです。お一人ずつ、簡単に自己紹介もいただいでよろしいでしょうか！ ご出身の大学のアピールも合わせてお願いいたします。では、なつびなつさん、お願いいたします！

なつびなつ(東大) はい！ 私は、東京とうきょう大学工学部だいがくを出ています。私は、大学で頑張って勉強

してたわけじゃないですし、全然大したことないです。にもかかわらず、東大卒っていうと「こいつすごいんじゃないか」って思っていただけなので、やっぱり最強の学歴はすごいなって思います。大学のアピールか……。つくづくもともと大学で勉強しておけばよかったなと卒業してから思うんですが、それくらい学びの環境としては最高の場所だと思います。

じゅそうけん 東大ときくと、やはり「受験天才」的なエピソードを伺いたくなるんですが、受験にはどういふ思い出がありましたか？

なつびなつ(東大) 受験勉強中は『進撃の巨人』が好きだったので、巨人に追われる夢を何度も見てました。

なんでそんなにプレッシャーだったかというところ、私は、やっぱりアイドルになりたい。そのために「東大卒」を何も無い自分の武器にしたいっていう志望理由があったんです。1年でも若い方がいいから絶対浪人したくなかったんですよ。しかも早稲田とか慶應けいおうとかの学歴の芸能人の方はすでに結構いるわけじゃないですか。それじゃ差別化に

日本初の受験天才は

第一章

ペーパーテストにめっぽう強い受験天才たちはもちろん昔から存在します。受験天才たちは、その持ち前の頭脳で国を発展へと導き、時に間違った方向へと扇動してきました。第一章では「受験」の歴史を振り返りながら、受験天才たちの消息を戦前から追っていききたいと思います。

誰なのか

(戦前の受験天才)

受験の起源（科挙との関連）

私たち日本人はペーパーテストが大好きです。

ペーパーテスト一発勝負こそ公正で唯一正しい入試方式だと信じて疑わず、近年存在感を増している総合型選抜（旧・AO入試）や学校推薦型選抜（指定校推薦）は「邪道」であると考えている日本人は非常に多いはずですよ。

Xで私が最近の大学の推薦入試の状況（最近急激に増加している）をポストすると、浪人生や受験を引きずっているおじさんたちから「けしからん！」とたくさん情熱的なコメントがきます。正直ちょっと怖いくらいです。

こうした彼らの拒絶反応からもわかるように、「5教科7科目をしっかりと勉強するのは受験生の義務だ」と本気で考えている日本人は非常に多いのです。

課外活動や面接を重視する欧米の大学とは異なり、日本の大学は伝統的にペーパーテスト一発試験を重視してきました。東大をはじめとする難関大に合格するため、1日何時間も机に齧り付いてガリ勉するスタイルが日本の受験では当たり前です。

しかし、世界的に見たらこれは割と異様な話です。アメリカやイギリスの難関大学では、確かにそれなりの学力は求められますが、それはあくまで必要な一要素に過ぎず、課外活

動やボランテニア、クラブ活動などの実績やリーダーシップもよく見られます。

欧米の人たちからしたら、東アジアの人たちが小学生のうちから塾に通い詰め、偏差値を1でも高めるために狂奔している今の状況は滑稽に映っていることでしょう。

それでは、この日本人（東アジア人）の「ペーパーテストしか勝たん！」という思い込みの起源はどこにあるのでしょうか？

まず初めに、日本人が支配されている「ペーパーテスト信仰」の原点に迫っていきたいと思います。

ペーパーテスト信仰の歴史を辿ると、やはりお隣の中国の「科挙」システムの影響を色濃く受けていることがわかってきます。

科挙制度とは、前近代の中国社会が持っていた官僚育成のための選抜試験であり、優秀な国家官僚の登用のために開発されました。

隋時代の598年に文帝ぶんていによって初めて導入され、清時代の1905年に廃止されるまで1300年以上にわたって続きました。閉じられた世界での選抜ではなく、広く門戸を開き優秀な人間を選抜することが目的でした。

科挙制度は家柄や出自に関係なく、ペーパーテストで点を取りさえすれば高級官僚への道が開けるという非常に画期的なシステムであり、世界的な評価も高いです。

ヨーロッパなどでは18世紀頃まで高官は貴族の世襲が当たり前でしたので、6世紀の隋の時代にこうした万人に開けた制度を確立していたのは驚嘆に値します。

科挙は今の受験などとは比べ物にならないほど熾烈であり、倍率は4000倍に及んでいたといえます。

まず「童試」という入試に合格することで国立学校への受験許可をもらい、その後いくつも本試験を受けるための予備試験を受験する必要があります。

しかも**受験は3年に1度で、落ちたら最初からやり直し**というリセット機能が搭載された鬼畜仕様でした。

そんな地獄のような予備試験を突破してようやく本試験。本試験では**2泊3日試験用個室に閉じ込められ、極限状態で受験を戦うことを強いられます**。中にはカンニングをする者もいましたが、発覚したら厳しい罰を処され、一族郎党皆殺しとなることも珍しくなりました。

最終試験合格者の年齢は30代後半がボリュームゾーンで、子供時代から数十年を受験に

捧げてやっと合格を勝ち取った人が多数派でした。もちろんその年で合格できない人は50歳、60歳になっても受験を続けていたといえます。

終わりの見えない受験スパイラルの中、発狂や自殺をする受験生は後をたたず、死ぬまで受験を続け浪人を重ねたまま寿命を迎えた人もいたようです（私はこの死に方を勝手に「浪死」と呼んでいます）。

この人生を賭けた点取りゲームの勝者である高級官僚の地位や権力は絶大なものでした。当時の中国の官僚は集めた税金の一部を皇帝に上納し、残りは私財にしても良いことになっていました。つまり、ペーパーテストを極めた彼らは莫大な富を得ていたのです。

科挙に合格した官僚たちは、現在の日本の金銭価値に換算して最低でも100億円以上の蓄財があったという話もあり、一度官僚になると家が三代まで栄えると言われていました。

当然ですが、今の日本で東大理三や京大医学部に受かったとしても、必ずしも高給取りになれるとは限りません。実際、国家試験まで辿り着けなかったり、医師の仕事が務まらず、塾の講師などをしながら細々と生活している東大京大医学部卒はたくさんいます。無

『受験は

ワンダーランドなのか、
デイストピアなのか』

特別鼎談

宇佐美典也×西岡孝誠×じゅそうけん

宇佐美典也 制度アナリスト

1981年生まれ。東京大学経済学部卒業後、経済産業省に入省し、企業立地促進政策などに携わる。在職中に「三十路の官僚のブログ」で注目を集める。新エネルギー・産業技術総合開発機構で電機・IT分野の国家プロジェクトの立案およびマネジメントを担当したのち2012年に退職。太陽光発電などの再生エネルギーについてのコンサルティングを展開し、制度アナリストとして著述活動・メディア出演を行っている。

西岡孝誠 東大生作家

1996年生まれ。偏差値35から東大を目指すも、現役・一浪と2年連続で不合格。崖っぷちの状況で開発した「思考法」「読書術」「作文術」で偏差値70、東大模試で全国4位になり、東大合格を果たす。そのノウハウを全国の学生や学校の教師たちに伝えるため、株式会社カルペ・ディエムを設立し、代表に就任。全国で「リアルドラゴン桜プロジェクト」を実施するほか、教育分野でのコンサルティングに取り組んでいる。

じゅそうけん この度は、宇佐美典也うさみのりやさんと西岡杏誠にしおかいつせいさんのお二人をお招きいたしました。この新書では「受験天才列伝」と題して、受験という仕組みが「どこからやってきたのか」を問うているのですが、その上で、歴史ではみえないリアルな現在のことや、これからの受験や受験天才が「どこへいくのか」という未来のことを探っていききたいと思います。

宇佐美典也さんは、東京大学経済学部を卒業後、経済産業省入省。2012年に退職され、制度アナリスト・著述家としてご活躍されています。以前私のXのポストをリポートしていただいたのを目にして、以来、ぜひお話を伺いたいと願っていました。

宇佐美典也（以下、宇佐美） はじめまして。じゅそうけんさんのアカウントはいつも拝見しています！ 自分の子どもが小学校に入って、やはり中学受験をさせてみようかなと考え始めた頃合いで、じゅそうけんさんのアカウントに辿りつきました。いまの受験事情を短くまとめられているというアカウントのなかでは、じゅそうけんさんが一番分かりやすいと思います。受験は親の情報戦という側面もありますよね。その判断の「基礎」となる受験情報を一個のメディアとして真剣に発信していらっしやいます。

じゅそうけん ありがとうございます！ 私の情報発信は、8割から9割は真面目というのを心がけています。掘れば掘るほど暗い話が出てくるのが受験の世界。だからこそ笑いどころも盛り込んで、というのが私のモットーです。今回、東大と中央省庁を経験された宇佐美さんならではの受験トークをお聞かせいただけるのではと、わくわくします。

そして西岡壺誠さん。西岡さんは偏差値35からの東大受験で培った「独学術」で、まさに『ドラゴン桜』をリアルで体現されています。受験界のトレンドの最先端にいらして、東大受験の事情に限らず受験の今を探究されている第一人者です。

西岡壺誠（以下、西岡） じゅそうけんさんとは同い年ですね！ お話しするのを楽しみにしております！

じゅそうけん いまの受験を語り合う最高のお二人にお越しいただけたこと、あらためて感謝申し上げます。どうぞよろしく願います！

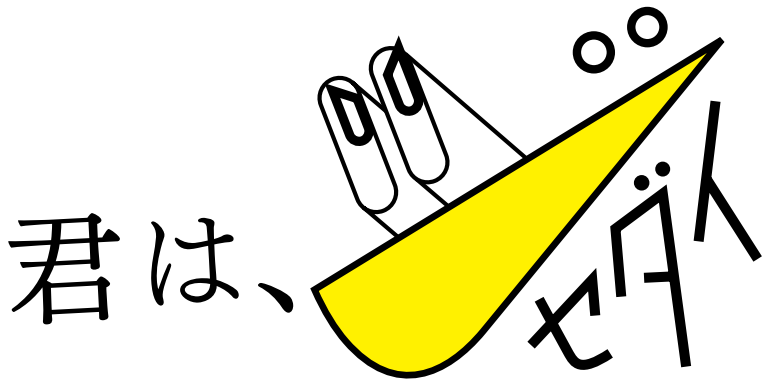
東大で出会った天才たちのリアル

西岡 宇佐美さんは、東大に入って「マジでこいつには勝てねえな」「こいつマジどうなってるの」みたいな「天才」と出会いましたか？

宇佐美 何人かいましたね。一人記憶に残っているのは、いまアメリカの大学で統計の教授をやっておられる方です。文科一類から東大に入られたのですが、めちゃくちゃに数学ができました。学部在籍中にして、すでに博士課程の人と同じくらいのレベルに達していたらしい。「金融とかやったらすごく稼げるんじゃない？」と尋ねたら、「そういうことじゃないんだよな、興味ないんだ」みたいな反応だったのが記憶に残っています。

あと、私たちの世代で有名な天才といえ、やっぱり長尾健太郎ながお けんたろうさんですよ。

じゅそうけん 僕もこの本で取り上げています。数学者であり、平成を代表する受験天才でもある方です。



君は、
何と闘うか？
<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、
行動機会提案サイトです。読む→考える→行
動する。このサイクルを、困難な時代にあっ
ても前向きに自分の人生を切り開いていこう
とする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月
開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。
「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、
すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!